

古典文法小テスト 助動詞（意味・活用編）その（1）「る・らる」

問 次の傍線部の助動詞について、意味と活用形を答えよ。

意 味 活 用 形

- ① 目も見えず、ものも言は れ ず。
- ② 宇治の左大臣殿は、東三条殿にて行は る。
- ③ 住み慣れしふるさと、限りなく思ひ出で らる。
- ④ いふままにはから る 人あり。

④	③	②	①
受身	自発	尊敬	可能
連体形	終止形	終止形	未然形

組
番氏名

古典文法小テスト 助動詞（意味・活用編）その（2） 「す・さす・しむ」

問 次の傍線部の助動詞について、意味と活用形を答えよ。

- ① 愚かなる人の人の目を喜ば しむ 樂しみ、またあぢきなし。
- ② 新院のおりゐ させ 給ひての春、詠ま せ 給ひけるとかや。
- ③ 「帝は竹取の家を」空ける隙もなく守ら す。
- ④ おほやけも行幸せ しめ 給ふ。
- ⑤ 月の都の人まうで来ば捕らへ させ む。

② b	② a	①	
尊敬	尊敬	使役	意味
連用形	連用形	連体形	活用形
⑤	④	③	
使役	尊敬	使役	意味
未然形	連用形	終止形	活用形

組
番氏名

古典文法小テスト 助動詞（意味・活用編） その（3） 「き・けり」

問 次の傍線部の助動詞について、意味と活用形を答えよ。

- ① さやうの人の祭見 しさま、いとめづらかなり き。
- ② 偽りの涙なり せば 唐衣しのびに袖はしぼらざらまし
- ③ 興なくおぼえければ、鉢に植ゑられ ける 木ども、みな掘り捨てられにけり。
- ④ 「これは、龍のしわざにこそあり けれ。」

	① a	過去	連体形	活用形	
	① b	過去	終止形	意味	③
②	過去	未然形	詠嘆	活用形	④

組 番氏名

古典文法小テスト 助動詞（意味・活用編） その（4） 「つぬたりり」

問 次の傍線部の助動詞について、意味と活用形を答えよ。

- ① 送りに来つる人々、これより皆帰り ぬ。
- ② 海さへおどろかして、波立て つべし。
- ③ 泣き ぬ笑ひぬぞしたまひける。
- ④ 今朝まぎれ出でて、かくなつてこそ参り たれ。
- ⑤ 集まれる人ども、一度に「は」と笑ひ たるまぎれに、逃げていにけり。

	①	完了	終止形	活用形	
	②	強意	終止形	意味	④
③	並列	終止形	連体形	活用形	③

組 番氏名

古典文法小テスト 助動詞（意味・活用編） その（5） 「ず む むず」

問 次の傍線部の助動詞について、意味と活用形を答えよ。

- ① 死の近きことをも知ら ず^a、行ふ道の至らざるをも知らず、身の上の非を知ら ね^bばく
- ② かの国元より迎へに人々まうで来 むず。
- ③ やがて掻きつくままに、頸のほど食は むとす。
- ④ 「忍びては、参り給ひな むや。」
- ⑤ 落人のあら んずる をば、用意してうち殺せ。

	① a	打消	連用形		③	意志	終止形
	① b	打消	已然形		④	推量	終止形
②		推量	終止形		⑤	婉曲	連体形

組
番氏名

古典文法小テスト 助動詞（意味・活用編） その（6） 「らむ けむ」

問 次の傍線部の助動詞について、意味と活用形を答えよ。

- ① 「鸚鵡ハ」人の言ふ らむ^a ことをまねぶ らむ^bよ。
- ② いかでかばかりは知り けむ。
- ③ 知りたることも、なほさだかにと思ひてや問ふ らむ。
- ④ みづからはいみじと思ふ らめど、いと口惜し。
- ⑤ さることはべりけむ。

	① a	婉曲	連体形		③	現在の原因推量	連体形
	① b	伝聞	連体形		④	現在推量	已然形
②		過去推量	連体形		⑤	過去推量	終止形

組
番氏名

問 次の傍線部の助動詞について、意味と活用形を答えよ。

- ① 羽なければ空をも飛ぶ べからず。
- ② 頼朝が首をはねて、わが墓の前に懸く べし。
- ③ 潮満ちぬ。風も吹きぬ べし。
- ④ 齋宮は、去年内裏に入りたまふ べかりしを、
- ⑤ 「宮仕へに出だし立てば死ぬ べし。」と申す。

③	推量	終止形		⑤	意志	終止形
②	命令	終止形		④	当然	連用形
①	可能	未然形		④	意味	活用形

組 番氏名

問 次の傍線部の助動詞について、意味と活用形を答えよ。

- ① やがてかけこもら まし^aば、口惜しから まし^b。
- ② 竜田川 色紅になりけり 山の紅葉ぞ 今は散る らし。
- ③ すべき方のなければ、知らぬに似たりとぞ言は まし。
- ④ あやしかりけることもや問は まし。

②	反実仮想	終止形		④	ためらいの意	連体形
①	反実仮想	未然形		③	推定	終止形

組 番氏名

古典文法小テスト 助動詞（意味・活用編） その（9） 「めり なり」

問 次の傍線部の助動詞について、意味と活用形を答えよ。

- ① 宰相の中 将こそ、参りたまふ なれ。
- ② 法華堂などもいまだはべる めり。
- ③ すだれ少し上げて、花奉り めり。
- ④ また聞けば、侍従の大納言の御娘亡くなり給ひぬ なり。

	①	意味	活用形
②	婉曲	終止形	
	③	意味	活用形
④	伝聞	終止形	

組 番氏名

古典文法小テスト 助動詞（意味・活用編） その（10） 「じ まじ」

問 次の傍線部の助動詞について、意味と活用形を答えよ。

- ① わが身は女なりとも、かたきの手にはかかる まじ。
- ② 冬枯れのけしきこそ、秋にはをさをさ劣る まじけれ。
- ③ 妻といふものこそ、男の持つ まじき ものなれ
- ④ 法師ばかりうらやましからぬものはあら じ
- ⑤ 人のたはやすく通ふ まじから む所に、跡を絶えて籠りみなむ
- ⑥ 勝たむとうつべからず、負け じ とうつべきなり。

	①	打消意志	終止形	活用形
②	打消推量	已然形		
	③	禁止・不適當	連体形	
	④	打消推量	終止形	活用形
⑤	不可能	未然形		
	⑥	打消意志	終止形	

組 番氏名

古典文法小テスト 助動詞（意味・活用編） その（11）最終回 「まほし たし なり たり」

問 次の傍線部の助動詞について、意味と活用形を答えよ。

- ① 敵かたきに会あうてこそ死しに たけれ^a、悪所あくしよに落おちては死しに たから^bず。
- ② あるいは己おのが行いか まほしき 所ところへ往いぬ。
- ③ 前まへ なる 人ひとども「実まことにさにこそ候まをひけれ。…」といひて、
- ④ 心こころにも思おもへること常つねのこと なれ^a ど、よにわろく覚おぼゆる なり^b。
- ⑤ 下したと^a して上うへに逆さかふること、あに人臣ひとみの礼れい たら^b んや。

③	存在・所在	連体形	⑤b	断定	未然形
②	願望	連体形	⑤a	断定	連用形
①b	願望	未然形	④b	断定	終止形
①a	願望	已然形	④a	断定	已然形
	意味	活用形		意味	活用形

組 番氏名